

8. 都市基盤・生活環境

暮らしやすい都市づくり

POINT 1

福島駅利用者数はコロナ禍で大幅に減少。回復傾向にありますが、以前の状況までは回復していません。

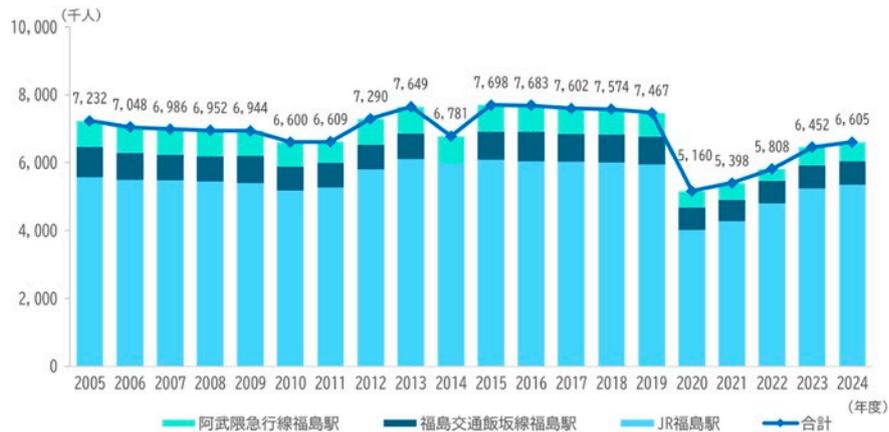
POINT 2

東日本大震災以降ごみは増加しましたが、2015年以降減少傾向にあります。

PICK-UP

代表的なグラフ

福島駅利用者数



ごみの種類別排出量

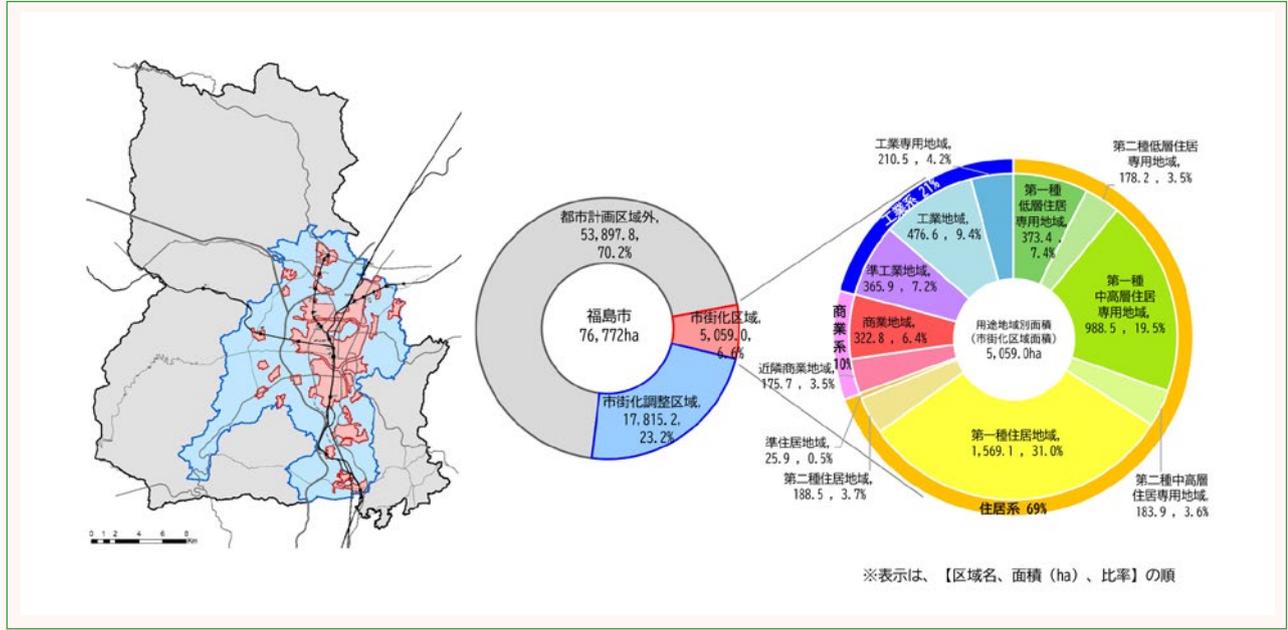


120

都市計画区域及び用途地域別面積

theme
都市基盤・生活環境

都市計画区域は市全域の約3割にあたり、そのうち約25%が市街化区域となっています。市街化区域の約7割に住居系の用途地域が設定されています。



資料：都市計画課

121

ごみの種類別排出量

theme
都市基盤・生活環境

東日本大震災以降ごみは増加しましたが、2016年度以降は資源にできない燃やすごみを中心に減少傾向にあります。



資料：環境省一般廃棄物処理実態調査他

122

【郡山市・いわき市比較】1人1日当たりごみ排出量

theme
都市基盤・生活環境

3市とも東日本大震災以降増加したが、近年は減少傾向にあり、福島市ではコロナ禍の活動自粛が解除され、自宅での巣ごもり消費が減少したことによって2023年度の排出量が66g減少し、このうち家庭系ごみの減少率は政令市・中核市の中で1位となりました。



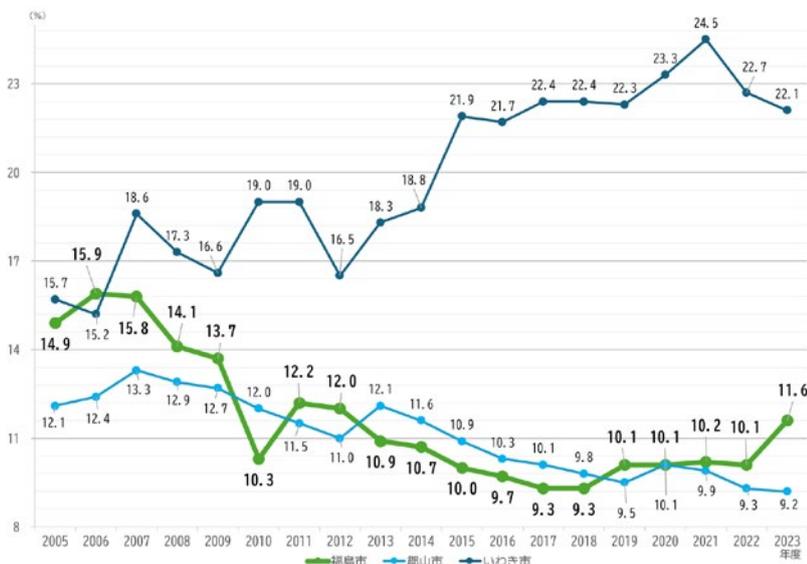
資料：環境省一般廃棄物処理実態調査、都市要覧

123

【郡山市・いわき市比較】リサイクル率

theme
都市基盤・生活環境

福島市と郡山市では横ばいの傾向が続いていましたが、2023年度の福島市のリサイクル率は、あらかじめクリーンセンター焼却灰溶融スラグの一部リサイクルを開始したことにより1.5ポイントの改善が図られました。いわき市は以前から焼却灰のリサイクルに取り組んでいるため3市の中で最も高くなっています。



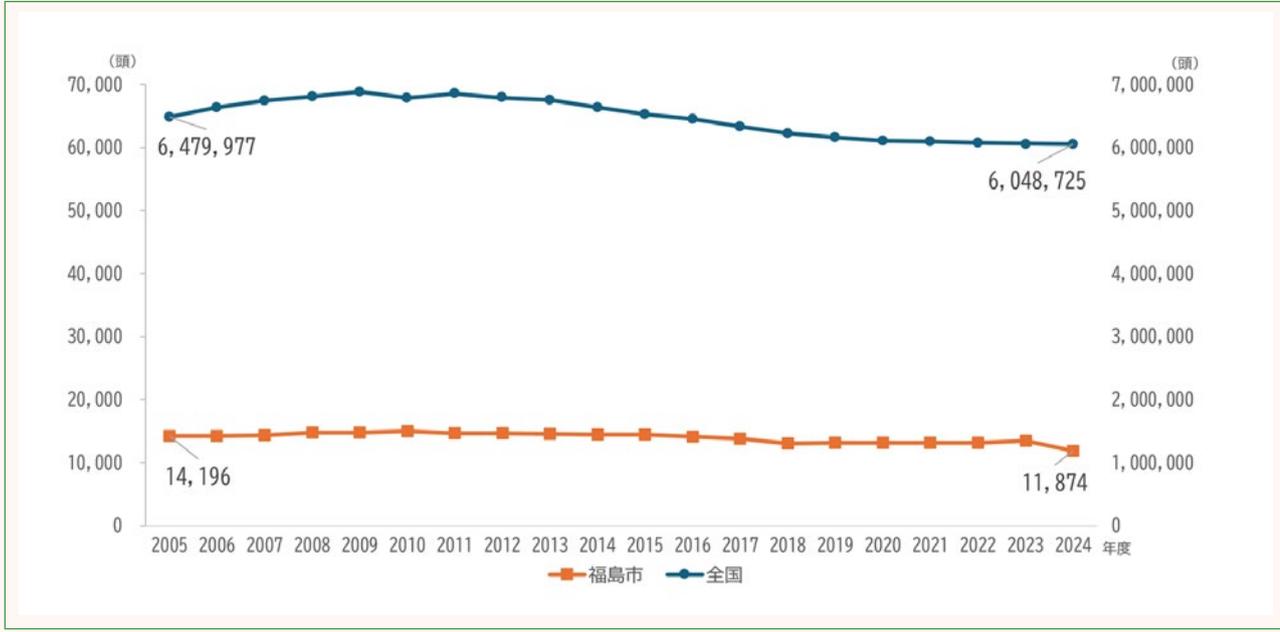
資料：環境省一般廃棄物処理実態調査

124

犬の登録頭数

theme
都市基盤・生活環境

犬の登録頭数は 2010 年頃までは増加傾向にありましたが、その後は緩やかな減少傾向となっています。



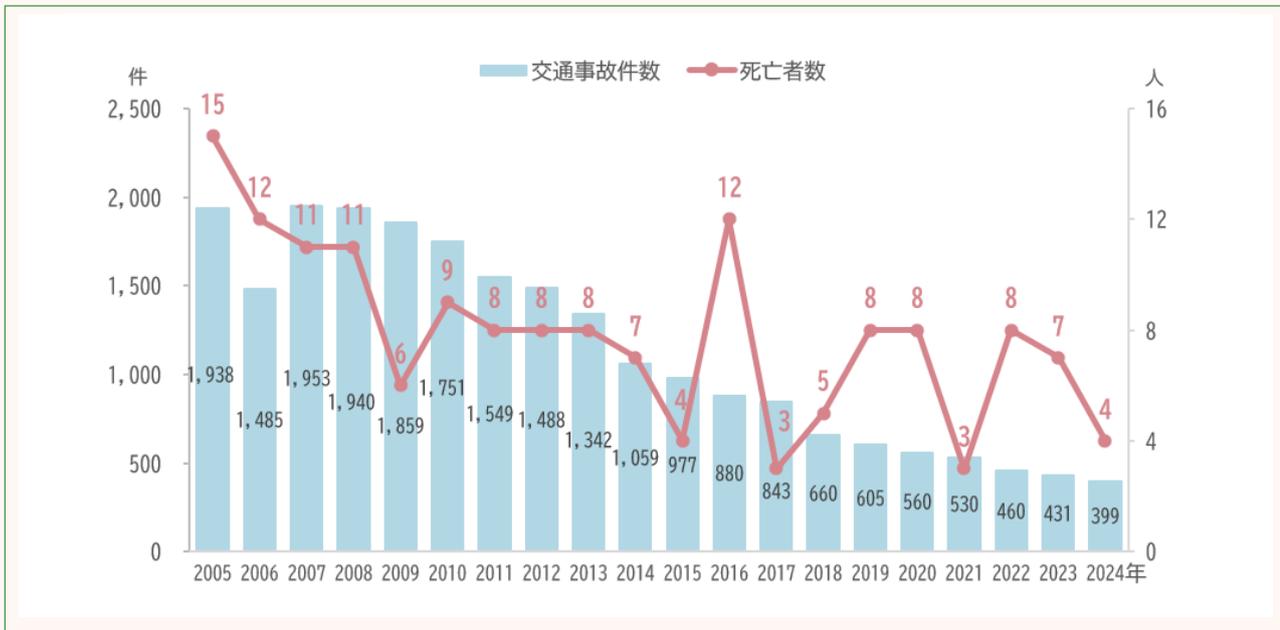
資料：福島市の登録状況、厚生労働省「犬の登録頭数と予防注射頭数等の年次別推移」
基準日：各年3月31日現在

125

市内交通事故件数

theme
都市基盤・生活環境

交通事故件数は 20 年前の 1/5 程度に減少していますが、死亡者数は年によって増減はあるものの毎年発生しています。



資料：生活課、福島警察署、福島北警察署

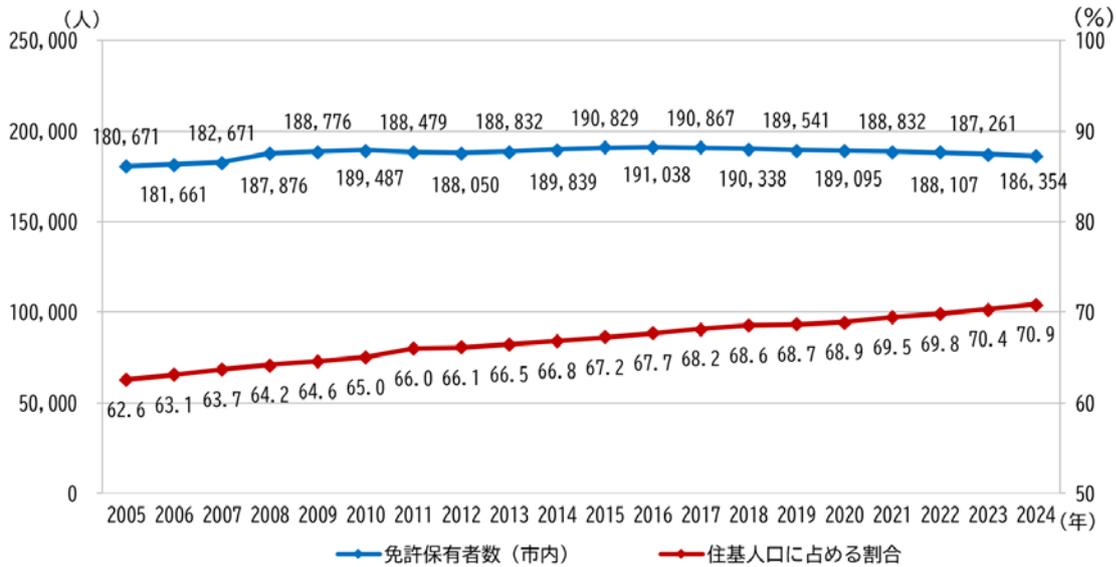


126

自動車運転免許者数

theme
都市基盤・生活環境

運転免許保有者数は減少傾向にありますが、運転免許を保有している割合は増加しています。



資料：福島県警察本部 交通白書、住民基本台帳
基準日：(交通白書) 12月31日現在、(住基人口) 3月31日現在

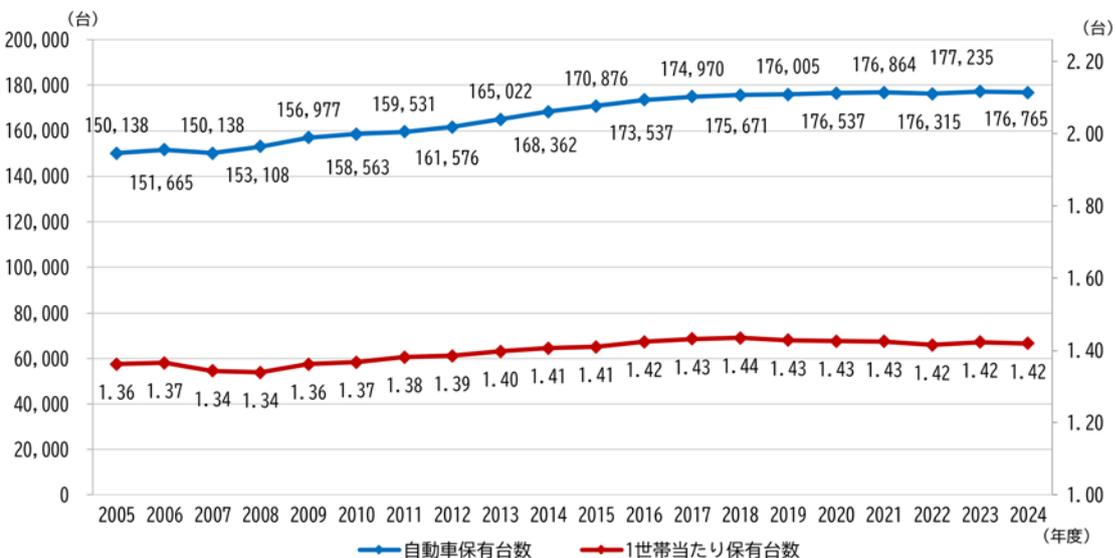


127

自動車保有台数

theme
都市基盤・生活環境

自動車保有台数は増加傾向が続いていましたが近年は横ばいとなっており、1世帯当たり保有台数は全国平均 1.01 を大きく上回っています。



資料：福島県警察本部 交通白書、住民基本台帳

128

バス利用者数

theme
都市基盤・生活環境

2020年度はコロナ禍により乗車人数が減少し、それ以降は徐々に回復傾向にあります。定期外利用者を中心にコロナ禍前の利用状況までは回復できていません。



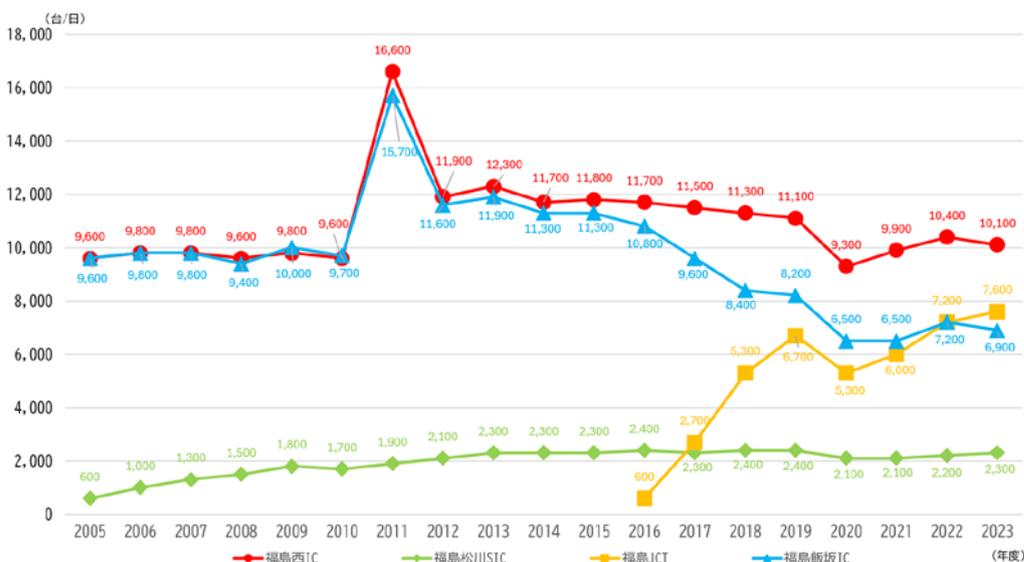
資料：福島交通（株） ※定期＝定期券利用者、定期外＝定期券以外の利用者

129

市内インターチェンジの交通量

theme
都市基盤・生活環境

2011年度の東日本大震災を発端にピークを迎え、その後減少傾向となり、2020年度のコロナ禍により一段と落ち込みましたが、その後は回復基調にあり、現在は横ばいになっています。



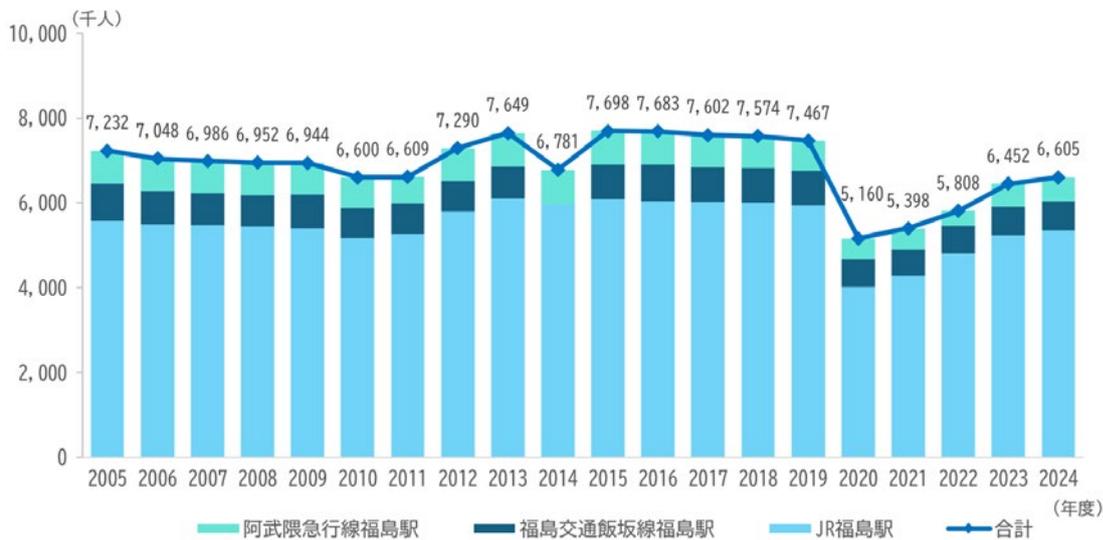
資料：福島県統計年鑑

130

福島駅利用者数

theme
都市基盤・生活環境

2016年度から緩やかな減少傾向を示しており、2020年度はコロナ禍により利用者数が大幅に減少し、その後徐々に回復傾向にありますが、以前の状況までは回復できていません。



資料：東日本旅客鉄道(株)、福島交通(株)、阿武隈急行(株) ※阿武隈急行線、福島交通飯坂線の数値は年間乗車入数、JRの数値は1日平均の乗車入数×年間日数

131

阿武隈急行線の市内乗車人数

theme
都市基盤・生活環境

2020年度はコロナ禍、2022年度は福島県沖地震により乗車人数が大幅に減少し、徐々に回復傾向にありますが、以前の状況までは回復できていません。



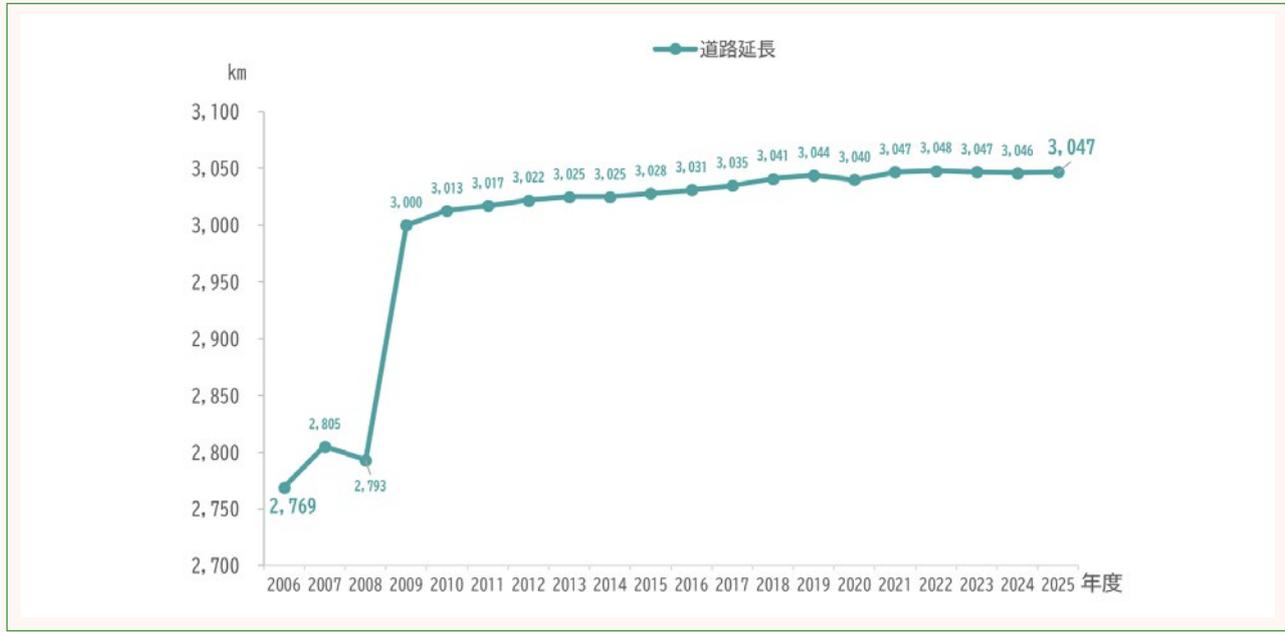
資料：阿武隈急行(株)

134

市道延長

theme
都市基盤・生活環境

2008年7月の旧飯野町との合併に伴い、市道延長が増加し、その後も道路改良事業の完成や開発道路の移管により緩やかに増加しています。



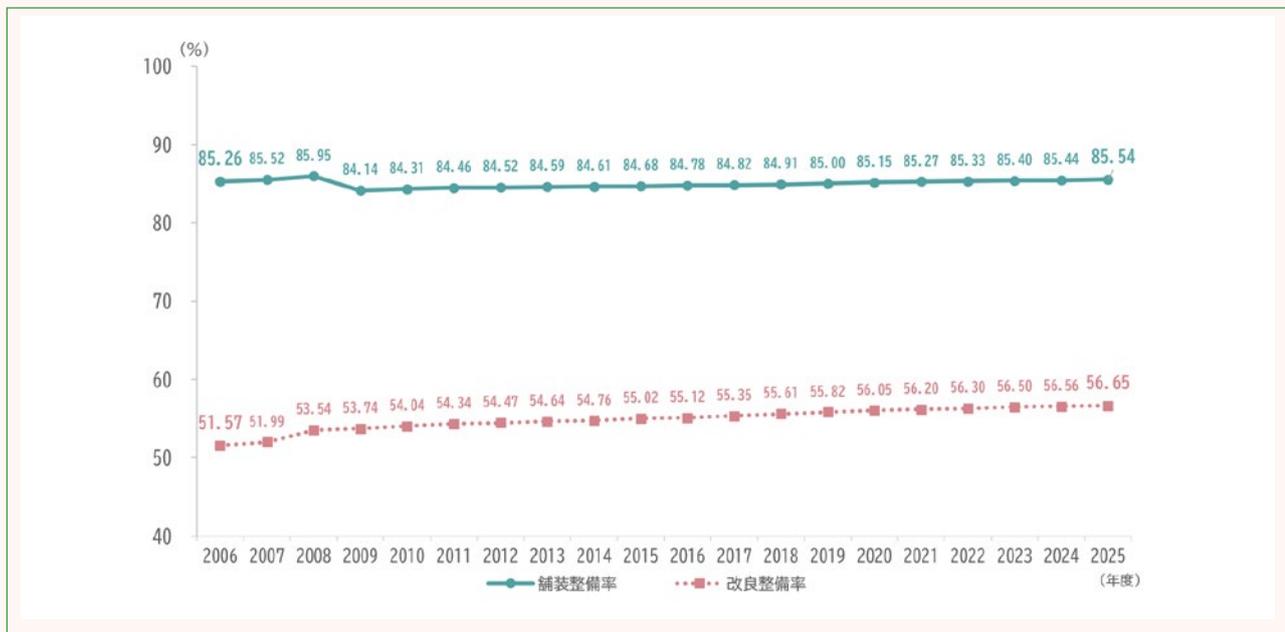
資料：路政課
基準日：各年4月1日現在

135

市道の舗装率と改良率

theme
都市基盤・生活環境

2008年7月の旧飯野町との合併に伴い、未舗装路線が増加し舗装率がやや減少しましたが、道路改良事業の完成や開発道路の移管により舗装率及び改良率は微増となっています。

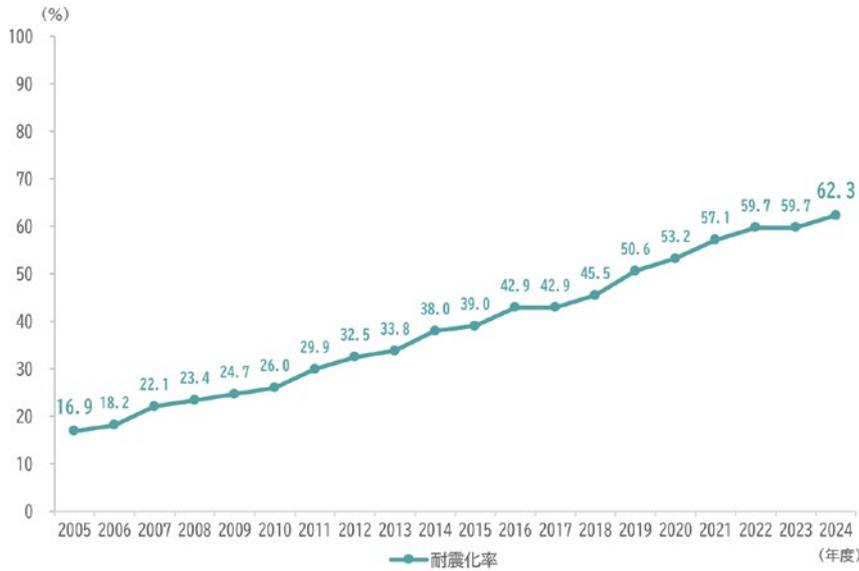


資料：路政課
基準日：各年4月1日現在

重要橋梁の耐震補強整備率

theme
都市基盤・生活環境

緊急輸送道路などの重要橋梁 77 橋の耐震補強整備率は 62% (48 橋完了) と着実に進捗しています。

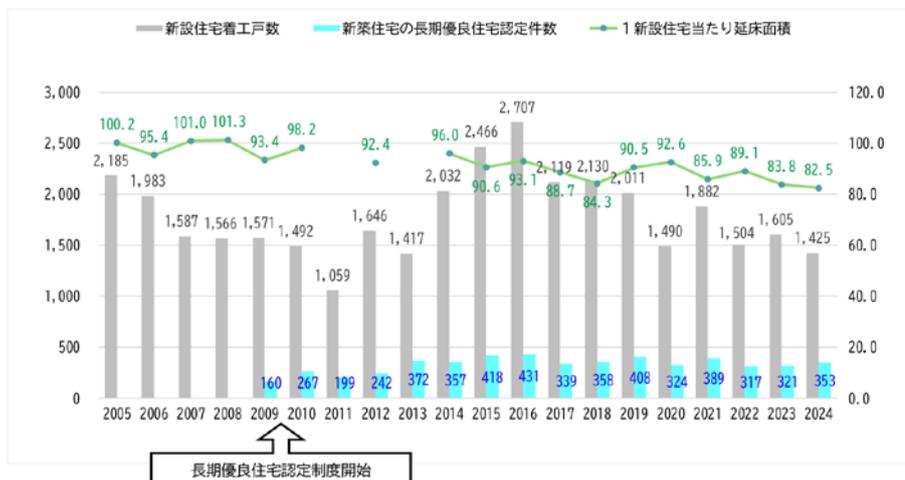


資料：耐震化完了の重要橋梁（77橋）一覧
基準日：各年4月1日現在

新設住宅着工戸数及び認定長期優良住宅の割合

theme
都市基盤・生活環境

新設住宅着工戸数は、2017 年度以降、人口減少や建設費用高騰などを背景に減少傾向が続いていますが、新設住宅に占める認定長期優良住宅の割合は増加傾向にあり、着工数は減りながらも良質な住宅の割合は増えています。



※長期優良住宅とは
「長期優良住宅の普及の促進に関する法律」に基づき、耐震性・省エネ性・維持管理・住環境などの高い性能基準を満たすとともに、維持保全計画が作成され、長期にわたり良好な状態が保てる優良な住宅として市が認定した住宅

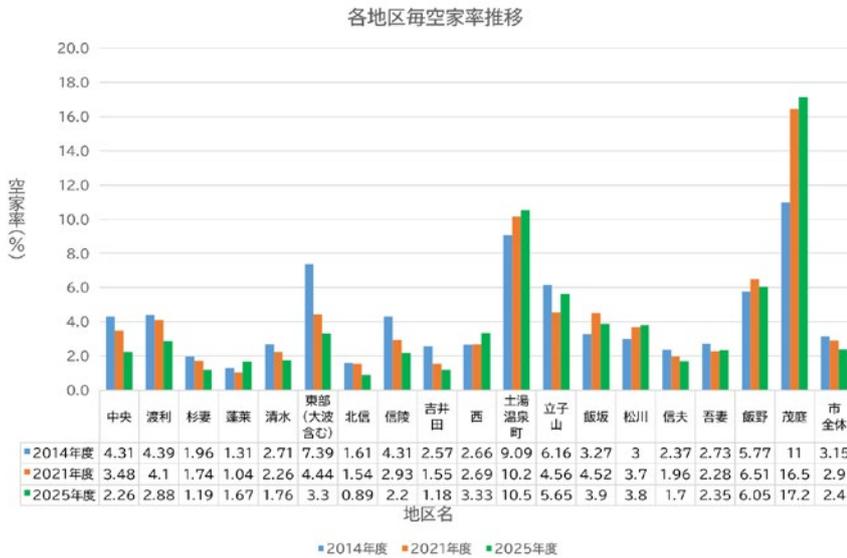
資料：新設住宅着工戸数及び1新設住宅当たり延床面積：開発建築指導行政年報、新築住宅の長期優良住宅認定件数：住宅政策課

138

空き家率

theme
都市基盤・生活環境

2021年度は前回から微増となりましたが、その後災害による建築物の公費解体や空き家対策としての補助支援、活発な不動産取引などにより2025年度の調査では空き家数は2021年度から約500件減少しました。



資料：都市計画課

139

地目別土地面積比率

theme
都市基盤・生活環境

地目別土地面積の比率については近年大きな変化はなく、その他（公衆用道路、保安林、河川敷等）を除くと、原野・畑が占める割合が多くなっています。



※：縮小処理の関係で合計が100%にならないことがあります。
※：公衆用道路・保安林のほか、河川敷・墓地・公園・学校用地などを含みます。

資料：固定資産概要調査 福島市
基準日：各年1月1日現在

140

公園面積と公園数

theme
都市基盤・生活環境

都市公園は、計画的な整備により現在 199 箇所整備され、公園面積全体の 8 割以上を占めています。その他公園は 20 年間で 1.4 倍まで増加し、現在 379 箇所整備され、都市公園の 2 倍近い数となっています。



資料：公園緑地課
基準日：各年3月31日現在

141

市民1人あたり都市公園面積

theme
都市基盤・生活環境

都市公園の市民1人あたり面積の標準は10㎡以上で、過去20年間は標準値を上回っています。近年は人口減少の影響を受け、値が増加傾向にあります。



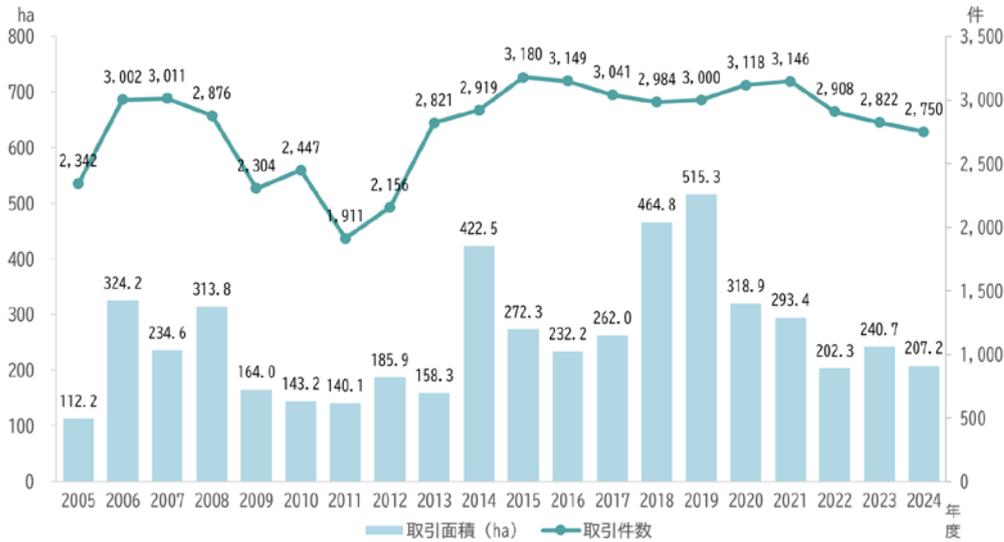
資料：公園緑地課
基準日：各年3月31日現在

142

土地取引件数と取引面積

theme
都市基盤・生活環境

取引件数は東日本大震災以降増加傾向であり、2014年、2018年及び2019年に土地の取引面積が大きくなっています。



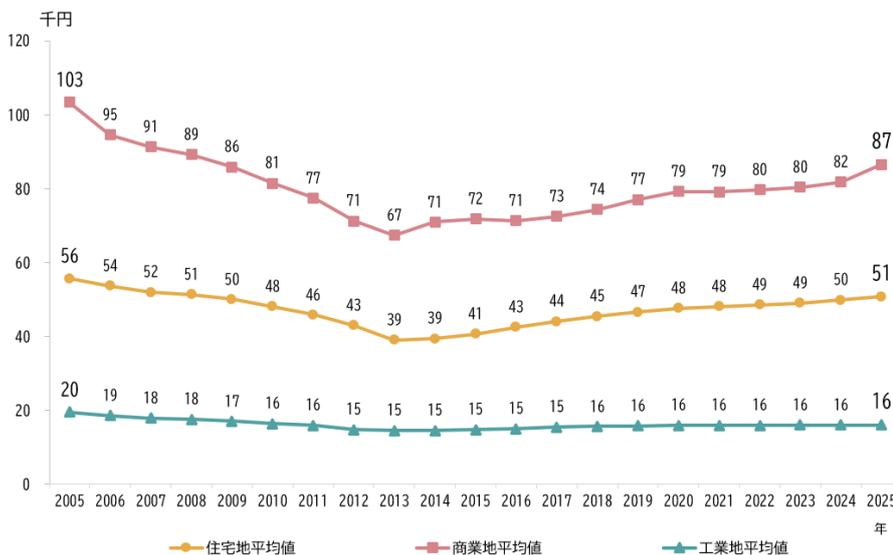
資料：国土交通省土地取引規制基礎調査概況調査
基準日：各年1月1日現在

143

地価公示価格（1㎡当たりの価格）

theme
都市基盤・生活環境

地価平均は東日本大震災の影響により低下したものの、緩やかに回復しています。住宅地の最高値が大きく上昇しています。

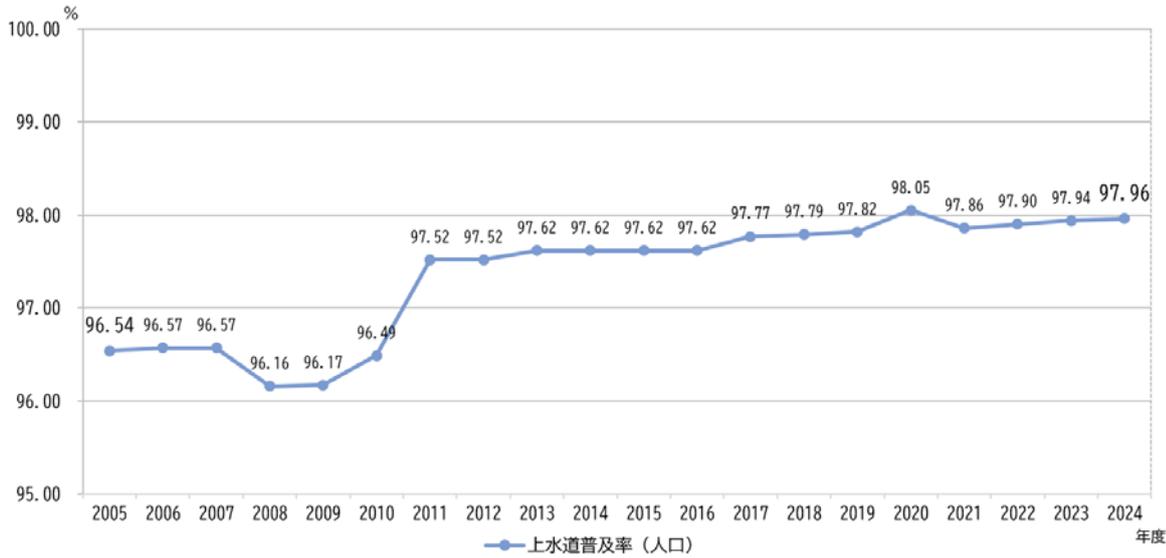


資料：国土交通省土地鑑定委員会
基準日：各年1月1日現在

上水道普及率（給水人口÷行政区域内人口）

theme
都市基盤・生活環境

上水道普及率は 2011 年度以降横ばいとなっています。

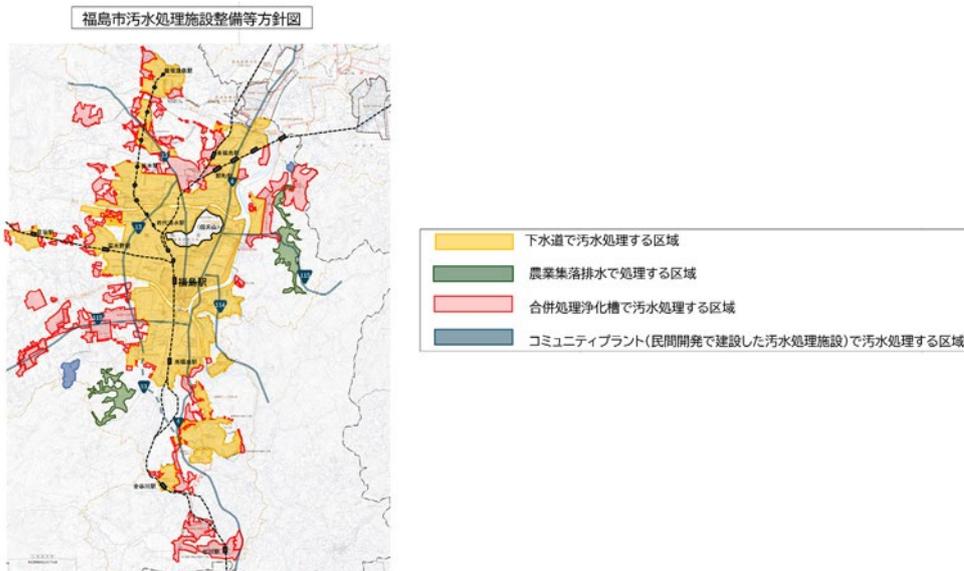


資料：下水道整備課
基準日：各年3月31日現在

污水处理施設整備方針

theme
都市基盤・生活環境

污水处理施設整備は、福島市污水处理施設整備等方針図に基づき実施していきます。



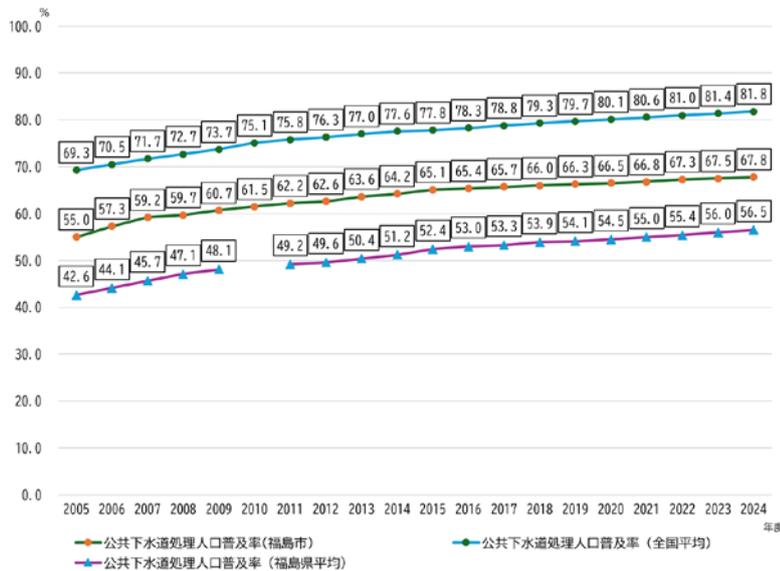
資料：下水道整備課

146

公共下水道処理人口普及率

theme
都市基盤・生活環境

公共下水道処理人口普及率は、全国平均よりは下回っていますが、福島県平均よりは上回っています。



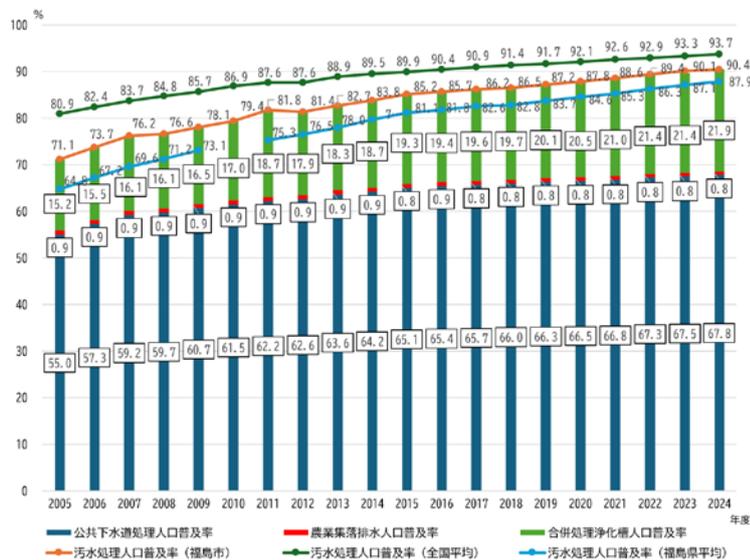
資料：福島市の下水道

147

汚水処理人口普及率

theme
都市基盤・生活環境

汚水処理人口普及率は、全国平均よりは下回っていますが、福島県平均よりは上回っています。



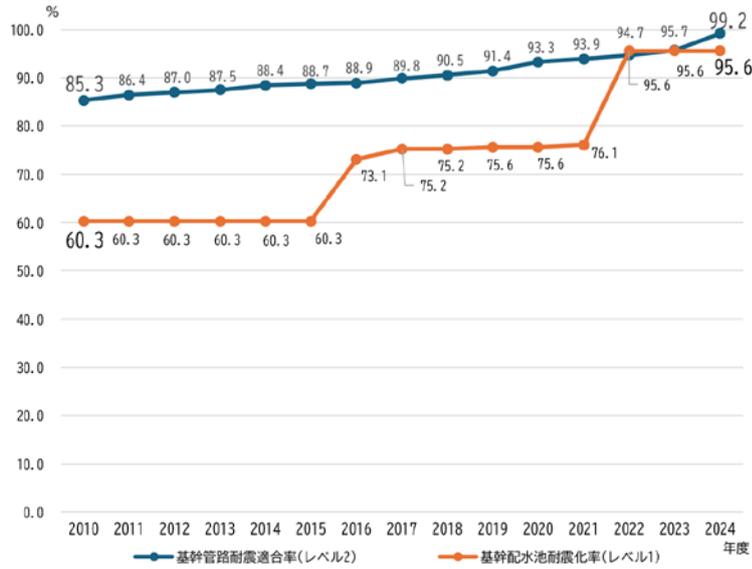
資料：福島市の下水道

148

基幹施設耐震化率（基幹配水池）・基幹施設耐震適合率（基幹管路）

theme
都市基盤・生活環境

基幹配水池及び基幹管路については 2025 年度に東日本大震災相当に耐える耐震化が図られる予定となっています。



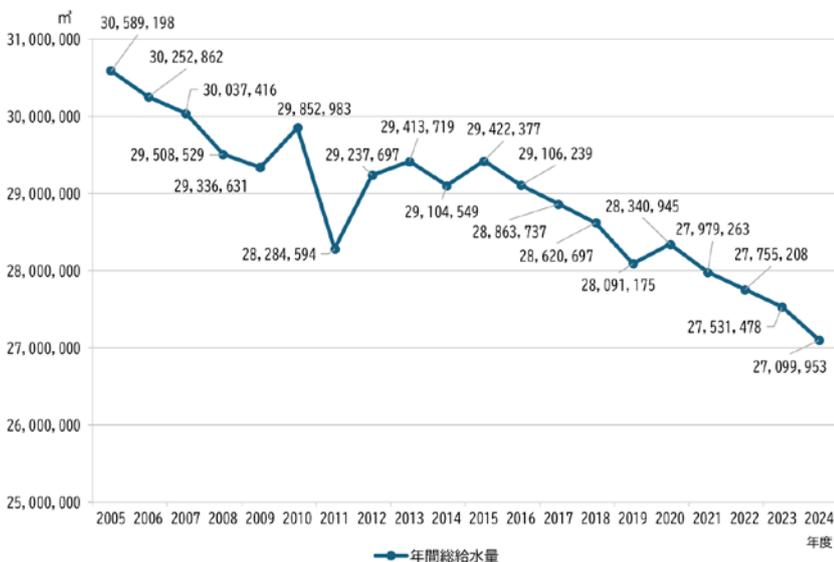
資料：経営企画課
基準日：各年3月31日現在

149

年間総給水量（有効水量）

theme
都市基盤・生活環境

年間総給水量は 2005 年度以降、人口減などにより減少傾向となっています。



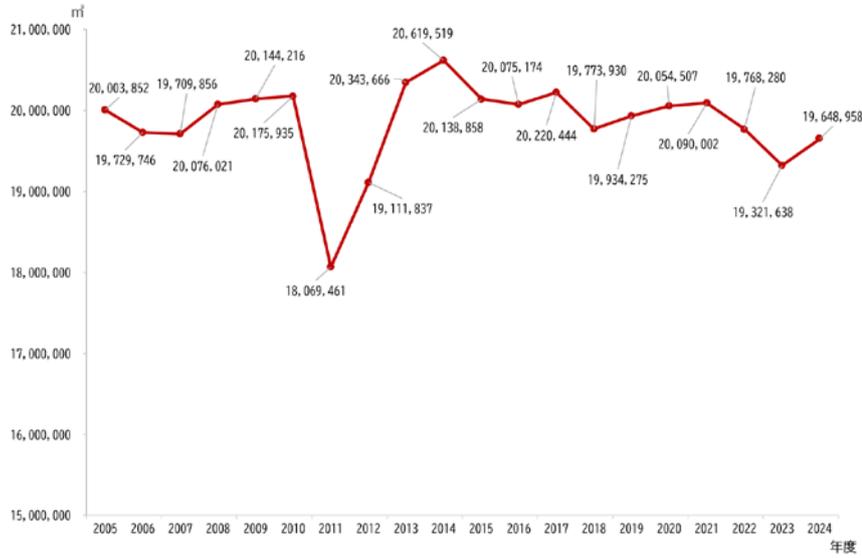
資料：水道総務課
基準日：各年3月31日現在

150

年間総処理水量（公共下水道）

theme
都市基盤・生活環境

年間総処理水量は横ばいの傾向にあります。



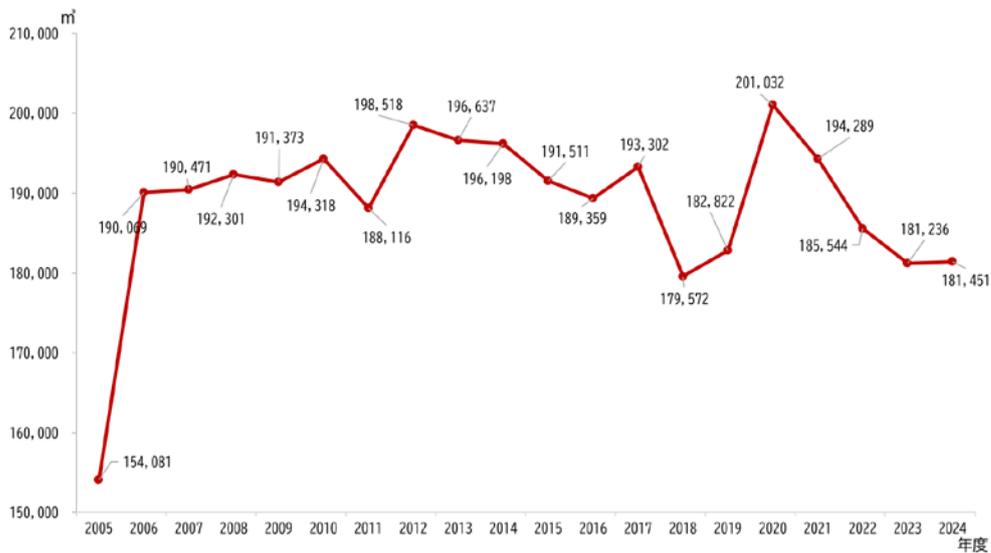
資料：下水道管理課

151

年間総処理水量（農業集落排水）

theme
都市基盤・生活環境

年間総処理水量は 2020 年度以降減少しています。

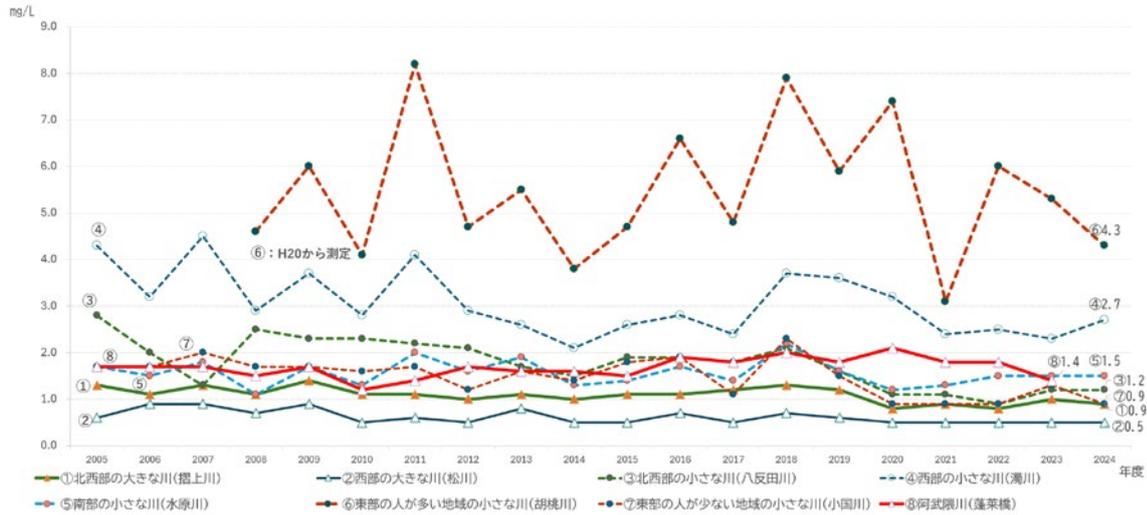


資料：下水道管理課

152

代表的河川のBOD経年変化

下水道や浄化槽の整備が進み、汚れた水の川への流入が減ったことにより、BODは低下傾向にあります。流量が少ない小さな川ほど人の活動の影響を受け変動が大きくなります。



資料：環境衛生課（2023 年度分以前は環境課）「福島県環境」